

地域に寄り添い、農家との関わりを大切に

～沖縄本島南部土地改良区 計画管理班技師 神谷 茂～ 沖縄県

1. 看護師からの転身

連日、炎天下。突き刺す日差しの下、後輩を従えテキパキと施設の点検・整備に勤しむ神谷茂（かみや しげる）技師。縁あって沖縄本島南部土地改良区に採用される前は、看護師という異色の経歴を持つ。当初、事務職として採用されたが、一日中机に座っていることが苦痛で肌に合わず、採用まもなく現場を担当する管理班への配置換えを直訴した。幼い頃から祖父のさとうきび畑での手伝いを通して、農業への関心はあったものの、土地改良区自体の存在すら知らなかった。

2. 農家は待ってくれない

本地区は、二つの地下ダムに貯留した農業用水を水中ポンプで取水し、さらに揚水機場からファームポンドへ揚水、一部受益へ加圧・減圧し、地区全体に配水する用水計画である。多くの様々な機器の一つでも不具合が生じた場合、畑に水が届かない。神谷さんは、これら全ての機器の運転操作、点検、整備、補修の他、地下水の水位・水質の監視などを日々の業務としている。特に末端の給水栓の不具合は頻度も高く、農家は待ってくれない。給水栓に付属した水量メータによって農家の賦課金（水使用料）が算定されるからだ。その都度、メーカーに問合せたら時間ばかりかかってしまう。現場に必要なことは、メーカー技術者と同等の技術力だ。特殊工具もメーカーから取り寄せ、即座に対応するよう常備した。

強く希望して配属された管理班ではあったが、当初は飛び交う言葉の意味も、工具の扱い方も全く分からず苦労の連続だった。しかし、毎日発生する現場での対応で、先輩から教わりながら少しずつ技術の習得に努めた。時にはメーカー技術者と議論を交わし、機器の構造、管理のポイントを学んでいった。その経験が今、大きな



制御盤の点検



末端給水栓の補修

自信となって、仲間と切磋琢磨しながら、後輩の指導にあたる。

「神谷君は、本当に努力家で、熱心に勉強していますね。今では、メーカーの技術者より詳しく、何より正確ですよ。また性格も明るいから、農家さんから人気も高い。」この春まで計画管理班の責任者として、採用当初から神谷さんを指導してきた宮里事務局長は、彼に絶大な信頼を寄せる。



管理班の先輩、宮里事務局長（右）

3. 農家のために

畑の中を移動する土地改良区のワゴン車は目立つ。だから良く農家に呼び止められる。給水栓の不具合など苦情も多いが、「あなたたちのおかげで、楽させてもらっているよ。」かつて河川のないこの地域では、わずかに点在する「カー」と呼ばれる湧泉まで水を汲みに出掛け、散水だけで一日が終わることもあった。「今じゃ、バルブをセットすれば、必要なだけ水がかけられ、勝手に止まってくれる。だから、水撒きの時間を別の作業に当てることができるさ～。昔に比べたら本当に贅沢な畑になったよ。ありがとうね。」この一言に癒やされると共に、自分の仕事に誇りと責任を感じる。他方、弁室など閉ざされた空間で、高圧の機器を扱うことも多く、絶えず緊張を伴う。現場では常に安全を意識し、緊張感をもって仲間と連携することを心がけている。「施設も機器も人と同じで、いずれ老朽化してくる。日々のメンテナンスを通した早めの対応が重要ですね。」



玻名城幹線1号制水弁の点検

地下ダムによって大きく変わりつつある沖縄本島南部地区の農業。最近では同年代の若い農家も増えつつある。「若い農家は、とにかく営農に対する意識が高い。いつ、どれだけ、どのように水をかけたら良いかを試行錯誤している。このような農家との意見交換はとても刺激になる。だから、自分たちも農家がより良い環境で農業が営めるよう、地域に寄り添い農家との関わりを大切に日々勉強しながら、農家と共に地域の発展に関わっていきたい。」と大きな目をより一層輝かせながら熱く語ってくれた。



米須揚水機場の点検

【沖縄総合事務局土地改良課】